

UIFA JAPON NEWSLETTER

■主な内容

- 新世紀のごあいさつ
- 2001年 UIFA への賀状
- ユニバーサルデザインを考える
- 「北国の視点で考えるユニバーサルデザイン」
- 海外交流の会
- 「みることとみえること」川西美沙さんのお話
- 役員会報告



ドラトウールさんからの原文

新世紀のごあいさつ

ウィーンで再び、世界女性建築家の友情の絆

UIFA 会長 S. H. ドラトウール

千年期の始まりに際し UIFA JAPON の皆さまに心より親愛のごあいさつを申し上げます。中原暢子会長、小川信子副会長、松川淳子事務局長を始めとする UIFA JAPON の全ての会員に対して、東京での UIFA 第 12 回世界大会開催における努力と決断に感謝し、皆さまのおかげにより UIFA は 21 世紀のこの新しい時代に、組織と効果と優しさという見事なお土産をもって立ち向かうことができました。

私たちは今、ウィーン（オーストリア）での UIFA 第 13 回世界大会の開催の努力をしており、新しい段階に入ろうとしています。ウィーンは西ヨーロッパと東ヨーロッパが交差する所に位置しており、西と東の国々の接点として相互に協調し順応するための多くの努力がありました。私は第 13 回大会で沢山の実り多い発表がなされ、全世界のすべての女性建築家の間に再び、更に強い友情の絆が結ばれると考え、かつ希望しています。

女性建築家の役割が増大することは、女性対男性とあるいはより正確には、ある種の実践や振る舞いの中の女性と男性の役割について、ひとつの姿勢をとるということを意味するものではありません。残念ながら男性と女性の職業上の分離は現存しており、それは男女間の仕事の歴史的な区分によっているわけですが、今後はこれまでとは異なる形になっていくでしょう。

女性は空間と建造物を変容させてゆく上で、社会的に重要な当事者であります。女性が家庭だけに閉じこもっている時代は終わり、ネットワークを組んで、建築の全ての分野、特に女性にとって問題と感じられる環境分野で影響力を広げやすくしたいものです。つまり私は UIFA JAPON の永続と繁栄を願っております。

パリにて、2000 年 11 月 (訳 北本美江子)

希望を持って楽しく生きたい

UIFA JAPON 会長 中原暢子

UIFA 会員の皆さま、あけましておめでとうございます。いよいよ 21 世紀となりました。これからが皆さまの力の発揮しどきだと思います。とにかく不満を持って生きるのは止めましょうよ。今の日本は決してよい状態ではないとは思いますが、それだからこそ、より私たちが頑張らなければどうしようもない時に来ていると思います。希望を持って楽しく生きたいとしみじみ思っております。でもそれは、誰もしてくれるものではなくって私たち自身で築き上げていかななくてはなりません。今年は第 13 回の総会がウィーンで 7 月に開かれることになっております。ぜひ皆さままで参加しましょう。そして、国際交流を深め、よりよい仕事ができる環境を創り出しましょう。

21 世紀は女性の世紀に！

UIFA JAPON 副会長 小川信子

20 世紀に別れをつけ、21 世紀の幕開けです。1930 年頃、CIAM の会議で最小限住宅と機能的な生活への提案があり、日本でも生活様式の変化が芽生え始めました。しかし、第二次世界大戦でその芽は成長せず、戦後再度、最小限住宅の検討から出発しました。女性が男性と共に肩を並べて生活を築き上げようと希望を持って歩みましたが、現在の社会は色々な意味で低迷しています。そのような時に、UIFA の第 13 回大会が“Before and After the Active Life”をテーマにウィーンで開催されるニュースが入りました。UIFA JAPON でも身近な環境を考えるために、名古屋、北海道など各地方での活動を拡げつつあります。国際的な視野を持ちつつ、21 世紀は女性の世紀である“と云いきれたら——と、願っています。

2001年UIFAへの賀状

◆『エコ・レースワーク宣言』 飯島静江
地球環境・人にやさしい都市の創造者、その主役は女性
21世紀 広げよう UIFA レースワークの輪
繋げよう UIFA レースワークの糸
伝えよう UIFA レースワークの事
実らせよう UIFA レースワークの種

◆UIFAの皆様、新年おめでとうございます 石川弥栄子
長らく勤めた都庁を離れ、初めてのお正月を迎えています。2000年は、高齢者住宅財団へ就職、法政大学大学院での「住宅計画特論」の講義等、チャレンジの年でした。2001年は「高齢者の居住」をテーマに、さらに地道な積み上げをと思っています。

◆レースワークをつたい 井出幸子
大地の色・湿り気・堅さが気になる。その土地の大地の本来もつべき質が気になる。どのような営みが続けられてきているのか気になる。20世紀に創られてきた大地の質が気になる。21世紀に踏み込み、UIFAのレースワークをつたい、気になる大地に立てたら、と思う。

◆家族のあり方を、教育を、環境を・・・ 今村芳恵
20世紀末には、これまであたり前と思われていたものの価値観を見直すことが問われた。UIFAも次代の女性建築家の役割を模索しつつ、新たな活動母体としてのあり方やステップを考えるとときかもしれない。未知なる21世紀に、魅力あふれるUIFAであるように。

◆21世紀のUIFAへ 大高真紀子
20世紀のUIFA…建築や都市の仕事に携わる、様々な国々の女性たちが一同に会する素晴らしい機会を私たちに与えてくれました。
21世紀のUIFA…私たちの地球は様々な問題を抱えつつ新しい世紀を迎えましたが、更なる飛翔を…!

◆すこやか21 Karasaki Hisako
U U I F F F F F A A A A
U U I F A A A
U U I F F F F A A A A A
U U U U I F A A

◆新しい時代に向けて 喜多素子
あけましておめでとうございます。女性建築家のための組織として発足したUIFAですが、世界中の女性達の努力によって、その環境は随分改善されたのではないのでしょうか。21世紀は「個」の時代。性別に関わらず一人ひとりが輝ける時代を築いていきたいですね。

◆世界ネットワークへ向け 北本美江子
交通、通信面では容易になった反面、言葉の通じないもどかしさや各国の事情の相違など、交流の中から何を生み出せるかという難しさに直面してきたと思います。日本大会の経験を生かす地道な努力を続けて、世界の女性建築家たちとの共通項を探りたいものです。

◆新世紀おめでとうございます 草野智恵子
建築家だけでなく、いろいろな職業の中で女性、女流などの枕詞が必要なくなる日が、早く来ることを願っております。
昨年からお引き受けした会計の仕事を含めて、今年もどうぞよろしく願い申し上げます。

◆新世紀への期待 栗山楊子
21世紀の扉が開かれ、日本の高齢化は更に急速に進み、同時に高齢者の孤立や孤独が深刻な問題となろう。建築家として自らの役割を自覚し貢献できることを模索している。民族、習慣の違いはあれ様々な視点からの意見や解決策を見出せるUIFAウィーン大会に期待する。

◆おめでとう! 栗山礼子
21世紀を私はコルビジエのロンシャンの教会で迎えています。お正月に家を空けているのは初めてなので自分まで新しい幕が開くような気分です。今年はウィーン大会もある大切な年ですので事業委員として努力していきます。1人でも多くの会員の方とお会いできるよう。

◆[年賀]・・・ 須永倅子
21世紀は、20世紀のいろいろな問題、戦争、天災、公害などを未解決のまま引き継いで始まります。こうした時こそ、UIFAの活動の社会的役割が大きくなることでしょう。暮らしと空間という視点を持った、女性らしい活動が重要になることと思います。

◆外に目を向けよう!! 高橋和子
30年以上も前、NYで映画「2001年宇宙の旅」を見た時、自分をそこに置いて想像することは出来なかった21世紀。あの時期為替レートは1\$/360円。紆余曲折を経ながら世界の仲間入りをしている日本。21世紀UIFAと共に世界の中の日本を見つづけていきたい。

◆新しい世紀に 田中厚子
Wishing for a peaceful and prosperous century.
平和で豊かな21世紀を願い
できることからひとつずつ
世界を視野にいれた行動をつみかさね
次の世代につなげたい

◆希望・創造・知恵 中井和子
新たな希望をいだいて、
暮らしやすい地球環境を
創造すべく、女性の知恵を
21世紀に結晶させたい。

◆想像を越えた私の『未来』を信じて! 中村陽子
毎年お正月が来る度に、もう1年が過ぎてしまったという思いと共に「前年とまったく違う年だった!」と感慨深く思います。きっと今年も、そして来年も、今の私には想像もできない新たな体験を重ねていけることを信じて、新たな時代である21世紀を迎えたいと思います。

◆2001年UIFAへの賀状

東 由美子

世界がますます狭くなっていく 21 世紀。世界中にレースワークをはりめぐらせている、UIFA の活躍の場がより広がってゆくことを願って、明けましておめでとうを言いたいと思います。海外の女性と仕事の上でも組んでいければいいなー。

◆21世紀おめでとうございます

正宗量子

あなたの巳年の初夢は？
仕事？ 家族？ 旅？ それとも
UIFA ウィーン大会？
今年は全速力で頑張ろう？！



◆宇宙の片隅から新年おめでとう！

松川淳子

UIFA の活動を通じて、地球のちょうど反対側に住む人たちとも出会い、話し合い、いつか、訪ねようと思うような友人関係を結ぶことが出来ました。この体験を大切に、手を取りあって、美しい地球の未来のためのささやかな活動を心がけたいと思います。

◆<mission>

三上紀子

星降る夜はそつと目を閉じこの1年の幸せに感謝します
Thank you For Your Kindness and A Happy New Year
次の世紀も、よりしなやかに、たおやかに
時空を超えたレースワークで、豊かな空間を
次の時代に伝えていきたいと思ひます

◆新たな世紀へ向けて

峯 成子

あまり明るくなく明けた世紀ですが、今後新たな展望を切り開いていくかなりの部分は女性にかかっていると思っています。長く生きてきた実感でもあるし、小団体ながら世界に窓口を持ち、世界大会を成功させた皆さんの目を眩る活力等、他分野も含め期待したいところです。

◆2050年の世界はどうなる？

柳澤佐和子

AIA 健康建築部会の世界会議で医師・未来学者・経済学者が将来予測を披露した。情報ツールの発達で殆どの施設がなくなり、世界のどこにいてもロボテックによる治療が受けられ、仕事もショッピングも教育も在宅になるという。直接、人間が交流しないことになるとは？

◆UIFAの世界をひろげよう

山田規矩子

今や世界中に女性建築家の仲間達がいます。でもまだ東南アジアや中近東、南アメリカやアフリカの仲間達は少ない。それぞれの国の政治や社会情勢が、私達が手を繋ぐことを阻んでいるのでしょうか。私達は手を伸ばし、どうか、私達の集まりに加わって下さいと呼びかけたい。

◆たくさんのニューリーダーが世界へ発信！

吉田洋子

心は7月のウィーンの会議に飛びます。
UIFA のメンバーは本当に多彩で、エネルギーやパワーを持っている方がたくさんいます。会員皆が「この指とまれ」のニューリーダーになって世界へ発信していきましょう。

六反田千恵



◆あらたなエネルギーの創出を

渡辺喜代美

暗号ですが2001年は出発の時。UIFAは自由なる交流から新たなレースワークをしよう。地球を歩きつつ足元をみつめよう。エコロジカルなエネルギーの創出の場であろう。求む！困難な世界に発信するメッセージの共有を。我、超微力な1人として、されど地球人として参画。

ユニバーサルデザインを考える
「北国の視点で考えるユニバーサルデザイン」

北国では冬場、雪による公共空間のバリアの存在と日常生活のハンディキャップを誰もが経験する。例えば、毎年、平均積雪が約1.5mある札幌では、除雪した雪が道路両脇に堆雪し道路幅員は通常の半分になる。歩道は1人が通行できる幅が確保できれば良い方で、狭い道では車道脇を歩かざるを得ない。また、ツルツルに凍結した凹凸路面や斜面はたいへん滑りやすく、毎年、歩行者の転倒骨折事故や車のスリップ事故が多数発生し、健常者でも屋外の活動内容や範囲に大きな制限が生じる。雪に覆われた路面の点字ブロックは役に立たず、金属製手摺りは素手で触れると危険であるなど、ハンディキャップのある人々は冬期間は家に閉じこもることが多く、外出時にはたいへんな労力を要する。

札幌市の年間除排雪費は約160億円で、これだけの金額が社会資本整備の形で残ることなく、雪とともに消えていくわけである。流雪溝・融雪槽・ロードヒーティング等が設置される所もあるが、全市規模になると高いランニングコストや設備費の問題等でなかなか難しい。

一般にユニバーサルデザインとは、公共施設へのアクセスの確保と選択性の提供、誰もが使用できる多様性と安全性、利便性等、景観にも配慮した共有空間の統合的計画構想である。しかし、北国の住民は等しく自然現象による「雪のバリア」を共有するわけで、このような「地域的ハンディキャップ」に関して、今まであまり取り上げられる機会がなかった様に思う。

雪からのバリアフリーの問題は、雪に強い都市や住環境計画、さらに雪国の建物デザインなど、北国の視点からユニバーサルデザインを統合的多角的に計画検討することが重要で、今後の雪国の課題である。(中井和子)

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5
麹町E・C・Kビル 輔生活構造研究所内
TEL: 03-5275-7861 FAX: 03-5275-7866
メールアドレス: uifa@L1QL.CO.JP

■海外交流の会 「みることとみえること」

—川西美沙さんのお話—



フレーベルの絵本を読み聞かせる川西美沙さん

川西さんのお話は、とても勉強になった。川西さんは、ご自分の専門である児童文学や教育理念からみた幼児の成長と建築の関わり合いについて、「みることとみえること」、フレーベルとシュタイナー

の教育理念、ご自分が絵本の読み聞かせをしているルンビニー幼稚園（谷口吉生氏設計）などをビデオやスライド、谷川俊太郎訳の絵本や写真集、フレーベルのおもちゃを紹介しながらお話をされた。

印象深かったおもちゃと絵本

なかでも、読み聞かせて下さった絵本とおもちゃが印象深かった。紹介された絵本は「あおくときいろちゃん」。具体的な形は一つも出てこない。青と黄色、茶色で登場人物を表現している。なかよしの場面では青と黄色が重なり緑になる。きっと子どもたちの目はその本に釘づけだろうと想像できる絵本だ。それと言葉をきっちり伝える川西さんの話し方も見逃せない。引き込まれていく。「みえること」は人が目にしたことから想像を膨らませていくこと。川西さんのお話を聞きながら子どもたちの想像は無限にひろがる。

「オンブツ（恩物）」と訳されたフレーベルのおもちゃの箱には「GIFT」と書かれている。No1の赤、青、黄色、緑、橙色、紫色のふわふわのまあるい毛糸の玉、思わずほおずりしたくなる。No2は○、□、△の白木でできた形の基本形。角に吊るための金具が埋め込まれている。□を吊り、ぐるぐるまわしていくと、シルエットが違ってくる。No3は分割された立法体で、No10は物体は点の集合体とイメージさせる円柱のチップ群。点、線、面等を、子どもの成長にあわせた「オンブツ」で、見て触れて認識していく仕組みになっている。

落水荘や帝国ホテル、明日館などアメリカや日本に数多くの建物を設計したフランクロイド・ライトは、この「オンブツ」で育てられたというお話だった。フィラデ



点から面へのオンブツ群を紹介



講義の合間にオンブツを手取る参加者

ルフィア万国博覧会に展示されたフレーベルのこのおもちゃに興味をひかれたライトの母親が購入し、当時9歳のライトに与えたそうである。彼は毎日毎日そのおもちゃで遊んだそうである。自然の中に溶け込んだような建物、植物や生物など自然な生態をじっくり観察し、設計に生かしていったライトの作風はこれが下地になっていたことを知り、ドイツ製の白木の積木で子育てした私にとっては、とてもうれしい発見であった。

生きる力を育てる幼児期の教育を

ある会で、非行に走る子どもの住まいの間取りに、家族とのふれあいの場がなかったことを聞いたことがある。そのため生活する空間がどうあるべきかという空間教育が必要と痛切に感じていた。幼児期の体験が人間性の形成に与える影響は大きいことを思うと、文部省の幼児期の教育方針が見直され、子どもたちの自主性を重んじ、生きる力を育てる教育思想が注目されている。自分の子育てを振り返り、改めて幼児期の教育のあり方を問うと言う意味で、今回の会は大変有意義な会であった。多くの人に是非聞いていただきたいお話だった。

小池（米田）和子

■役員会報告

第8回 2000年11月27日（月）

出席者：中原、飯島、松川、東、山田、吉田（あ）、吉田（洋）、渡辺、草野、北本、正宗、栗山、田中

議事

- ・第22回海外交流の会総括 参加員13人、非会員7人、合計20人
- ・会員数について（非納会員の対応）
- ・会員区分ワーキングについて アンケート案 北海道交流会、愛知交流会
- ・ウイーン大会準備について 事業部によるドイツ語教室など

■広報日より

「2001年UIFAへの賀状」としてUIFA JAPON理事や委員からのメッセージ。それぞれ高らかに、希望に満ちて。21世紀は地球規模のレースワークを予感させます。2001年世界大会はウイーン。テーマはBefore and After the Active Life。ご期待下さい。21世紀が創造的世紀でありますよう。

吉田あこ、吉田真澄、日高たか子各氏からは都合により「2001年UIFAへの賀状」へのメッセージを控えさせていただきます。この指とまれ、広報担当の30字メッセージは次回に。

広報担当：渡辺（編集長）、飯島、田中、井出、今村、須永、北本、中村、大高、六反田、柏原